

2025年度第1回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日 時：2025年10月1日（水） 午後2時00分

■会 場：町田市立国際版画美術館 講堂

■内 容：

1. 報告事項

(1) 美術館評価について (資料1)

(2) 美術資料の収集状況について (資料2)

(3) 展示事業の振り返りと総括について
「両大戦間のモダニズム：1918-1939 煌めきと戸惑いの時代」展 (資料3)

「日本の版画1200年 - 受けとめ、交わり、生まれ出る」展 (資料4)

(4) 普及事業の振り返りと総括について (資料5)

2. 審議事項

(1) 2026年度事業（案）について

・展示事業予定 (資料6)

・普及事業予定 (資料7)

3. その他

■出席委員： 諸川 春樹、三上 豊、降旗 千賀子、生嶋 順理、
・吉田 和夫、高橋 健志、岡野 美紀子（敬称略）

■出席者： 町田市文化スポーツ振興部 老沼部長、
町田市立国際版画美術館 大久保館長
町田市文化スポーツ振興部美術館課 野澤課長
齊藤担当課長、藤村係長（版画担当）、渡辺係長（普及担当）、
森係長（管理担当）、西（管理担当・書記）

■会議録（要約）

○開会の宣言（町田市立国際版画美術館課 課長）

○町田市文化スポーツ振興部長挨拶

○館長挨拶（町田市立国際版画美術館 館長）

○委員紹介

○会長、副会長の選出

（会長には諸川委員、副会長には三上委員が選出されました。）

1. 報告事項

(1) 美術館評価について

○資料1について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等
なし

(2) 美術資料の収集状況について

○資料2について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等
なし

(3) 展示事業の振り返りと総括について

○資料3について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等
委員

「両大戦間のモダニズム」展について、非常にいい内容だったと思う。特に、ファッションを取り上げた点がよかった。版画に特化した美術館であることから、「版画的な作品見せますよ」という内容の展示を行うと、足が向く人が少し偏ってしまうことがあるかと思うが、今回の展示では、ファッションプレートや、その時代に興味がある人など、版画が好きな人たちとは違う人たちも呼び込めたのではないかと思う。このような、さまざまな分野に広がる企画展は、非常に可能性があると思った。

委員

SNSによる広報を活用しているとのことだが、SNSでの発信はどうしても一方通行になってしまう。それに対して、うまくレスポンスを生かせるのがアンケートだと思う。しかし、展覧会のアンケート結果を見ると、回収率が低すぎる。多くの方が来館しているのに、アンケートに答えている方は少ない。アンケートの回収方法として、QRコードを読み取ってもらってネットで回答してもらう方法もある。ただ、それを版画美術館で行うためには、Wi-Fiの設置が必要である。版画美術館は地の利がよくないが、今後検討してほしい。展覧会の企画自体はとても魅力のある切り口であり、今後も継続してほしい。

委員

アンケートの回収率については、これまでも運営協議会で意見が出ている。QRコードなどの導入もあるが、回収率を上げる一つの方法として、日にちを決めて、その日に来た人には全員「アンケートをお願いします」と一言添えてチケッ

トを販売するという方法もある。そういった方法も活用してはどうか。これだけ来ているのに、アンケートの回収率が4%~5%というのは、低いように思う。

(4) 普及事業の振り返りと総括について

○資料5について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

普及事業の講座には、すぐれた講師の方々を招いており、非常に内容のある講座が行われている。そうした講座の内容について、記録を残したほうがいいと思う。記録を蓄積していくことで、それらがいずれ公開されたり、それをもとに新たな講座などに発展していくことがあればよいと思う。

委員

中学校美術部の受け入れなど、美術館の普及担当による学校教育への協力はありがたい。今後、美術館が事業として、学校の受け入れをもっと増やしていきたいなどの希望があれば、中学校教育研究会の部会というものがあるので、その集まりの場に美術館職員が来て、説明をしてもらうこともできると思う。

委員

近頃、「体験格差」というものが随分出てきているように感じる。講座などの体験について、お金を出しても行かせたい、という家庭があるのに対して、お金がなくていけないという家庭もあり、二極化しているように感じる。地域学校協働活動のように、子どもたちは無料で参加できて、講師などの関係者へは主催者側が一定の謝礼を支払う、というものもある。そのような方向も大事かと思う。また、放課後の学習室の延長線上に、こういった講座を位置づけることもできる。有料の講座があってもいいが、無料で誰でも参加できる講座も検討していったほうがいい。

委員

展覧会について、所蔵品をうまく活用していると思う。世代交代して新たに入ってきた学芸員たちが、1987年に開館したときから集めてきた作品を、とても個性的に再料理しており、きちんと検証していることを感じた。その姿勢が、ひとつずつの展覧会がとても丁寧に作られているということから感じられた。その評価が図録の内容の充実と、売上につながっていると思う。版画というジャンルについては、いろいろなテーマの展覧会が出尽くしているなかで、版画というものについての考え方、新たな視点について考えていくことがこの先必要になってくると感じた。

教育普及について、これから博物館と一緒にあって、いろいろなジャンルのものも工房として一緒にやっていくことになる。それを見越して、新しいこともやっ

ていけないといけない。そのためには、中長期的な考え方を示していく必要がある。他の美術館で行っている普及活動も参考にしながら、「版とは何か」などについて、新しい視点から考えることが必要だと思う。また、普及活動の記録について、記録集をつくることが重要だと考える。ひとつひとつの記録をホームページに公開していくことも重要だが、版画美術館が1987年からやってきた普及活動をちゃんとドキュメントとして作っていくことが必要だと思う。少ない人数で行っているということは承知しているが、少しずつでも進めていく必要があると思う。

委員

版画美術館について、ネット環境がよくないことが美術館運営のブレーキになっていると感じる。また、文化協会が開催している市民美術展など、版画美術館では市民が自分たちの作品を観てもらい展覧会が行われているが、利用者が高齢化しているところもある。若い人たちも呼び込めるような、軽やかなスペースを持てるよう、変わっていくことができれば、と思う。

委員

普及活動の記録集をつくることは、非常に重要なことだと思う。しかし、それをいまから振り返って、初めのころからのものを作るのは、非常に酷なことだし、編集作業も大変だと思う。なので、近々の今年やったことなどを、少しでもいいから、ペーパーにしておく、誰もが見られる記録にしておくことが、一番手取り早いことだと思う。アーカイブ制作を考えたとき、昔の資料をデジタル化していくのは大変なことであるが、今入ってきたこと、今年やったことをとりあえずまとめておこうということは、ひと手間かければできることなので、それを2年、3年続けていけば、そのうちどこかで、誰かが昔のことをやってくれることもでてくる。日々、記録していくことを考えてほしい。展覧会については、図録が残るので、それが強みである。また、現代美術や西洋美術はだんだんと手詰まりになることが多いが、版画美術館はコレクションをうまく活用することで、企画自体がいろいろ面白いことができる美術館であると思う。

事務局

普及事業の記録について、2020年以降は版画美術館で発行している「紀要」に講座の記録と写真を掲載しており、外部に公開している。それ以前については、「普及事業この1年」という冊子を作成しており、一部、ホームページにも公開している。もう少し肉付けしていけたらなと思っており、今後も努力していきたい。

2. 審議事項

(1) 2026年度事業（案）について

○資料6及び7について事務局から説明。

○委員からのご意見、ご質問等

委員

これから必要になるのは、受け身で待っているのではなく、アウトリーチしていくことだと思う。アウトリーチの方法については、たとえば学校に対するアウトリーチや、市外に対して宣伝を兼ねてアウトリーチする方法などもある。また、英語を含めた外国語による広報を行った方がよい。展示の解説資料など、海外では手元の携帯などで見ると、自分の言語で表示される、という施設もある。そういったアウトリーチのやり方を検討してほしい。町田市内に住む外国の方や、市外から訪れる方など、さらには海外から訪れる方に向けて、なるべく外に開いていくような広報をお願いしたい。

事務局

美術館教育活動の学芸員が入り、鑑賞会の開催や、大学をはじめ夏休みの小中学校の受け入れなど、学校対応を始めている。普及活動といかに一緒にやっていくか、どのように報告を行うか、アーカイブ化していくかについて、今後、試行錯誤していかななくてはならないと考えている。また、最近、通販サイトで当館の図録やグッズの販売を開始するなど、多くの方に当館の活動を知っていただくよう、インターネットを活用しながら前に進めている。

会長

審議内容について、承認でよいか。
（「異議なし」の声あり）

会長

審議内容を承認とする。

3. その他

- 芹ヶ谷公園“芸術の杜”推進事業の進捗について事務局から説明
（資料なし）

委員

当初の案は、ペンディングということか。

事務局

工事のスケジュールについて、（仮称）国際工芸美術館を2029年4月にオープンするという事に変わらない。

委員

版画美術館の工房をガラス工房と一括して別に工房を作る、という当初のプランは、今も継続していると考えていいか。

事務局

現在のところ、これまでお伝えした計画と変わっていない。版画美術館は2027年7月頃から休館に入る予定だが、工房機能は途切れなく完成した体験棟に移り、版画美術館は改修に入る、という予定になっている。ただ、工事の進捗等があるので、スケジュールが変わる可能性はある。

○ 閉会の宣言（会長）

—以上—